

## 〈2018年度日本天文学会天文教育普及賞〉

# 本物の宇宙を魅せたくて

黒田 武彦

〈〒671-1227 兵庫県姫路市網干区〉



このたび、「国内外における長期的かつ広範な天文教育普及活動に対して」という理由で、2018年度日本天文学会天文教育普及賞を授かりました。大変ありがとうございます。授賞式に出席できず、関係の方々にはご迷惑をおかけしました。今回、受賞記念記事を書く機会を得ましたので、お礼を兼ねて、天文普及活動に関わる想い出話を少し書かせていただこうと思います。

### 1 はじめに

私は1946年に姫路市で生まれました。香川大学教育学部を卒業し、東北大学理学部天文科研究生を経て、一時、自動車関係の会社に就職していました。しかし天文学への思いは捨てがたく、1972年に大阪市立電気科学館へ就職し、天文学の教育普及に携わることとなりました。さらにいろいろなご縁と勧めもあり、1989年より兵庫県立西はりま天文台（現兵庫県立大学西はりま天文台）の開設準備に関わり、1990年の天文台開設後は、2012年に退職するまで20余年にわたり、広く市民に開かれた公開天文台として、本物の宇宙を魅せる天文教育普及活動を行ってきました。以下、おりのエピソードなど綴らせていただきます。

### 2 大阪市立電気科学館時代

1972年に大阪市立電気科学館（通称、電館）へ就職することができ、社会教育の現場で、天文学の教育普及に携わることとなりました。大阪の四つ橋交差点角にあった電館は、1937年に開館した、日本で最初にプラネタリウムを導入した由緒ある施設です。老朽化したため1989年に閉館しましたが、後継の大阪市立科学館の設立準備をお手伝いしつつ、電館閉館と同時に私の電気科学館時代



写真1 電気科学館での最後のプラネタリウム投影（1989年5月31日）。

も終わります（写真1）。

電館時代の思い出もたくさんありますが、最初のフィリピンへの日食ツアーは人生観を変えるほどの大きな出来事でした（写真2）。

また電館はマンガの神様手塚治虫さんが足繁く通った施設で、閉館前には、超ご多忙な手塚先生に講演に来ていただいたのも、とても懐かしい思い出です（写真3）。

### 3 西はりま天文台時代

兵庫県立西はりま天文台には、1989年の開設準



写真2 フィリピンへの皆既日食ツアー。ダバオにて  
(1988年3月16日～21日)。



写真4 完成したばかりの、なゆた望遠鏡とともに  
満面の笑みで (2004年9月3日; 福江純さん  
提供)。



写真3 手塚治虫さんが神の手で“瞬時”に描いた10  
枚の“サイン”(1987年4月4日; 福江純さん  
提供)。

備から関わる事ができて、1990年に開設となりました。当初は口径60 cmの望遠鏡が設置され、滞在型の公開天文台として多くのみなさまを受け入れることができました。さらにリアルで遠くの宇宙を覗いていただきたく運動を行い、多くの方々の理解と協力を得て、2004年には、口径2 m、当時としては世界最大の公開用望遠鏡「なゆた」が完成しました。私の人生の中でも、もっとも嬉しかった出来事の一つです(写真4)。

西はりま天文台では、天文学の研究と普及を両立すべく、公開天文台の新しい形を模索してまいりました。

またこのような活動は西はりま天文台単独で行えるものでもありません。公開天文台同士の連携

活動も不可欠です。公開天文台の横の繋がりである「全国の天体観測施設の会」を経て、2005年に「日本公開天文台協会」が設立され、その初代会長をお引き受けすることになりました。そして天体観測施設間の情報交換の場ができたことで、公開天文台の相互連携が活発になり、日食などの天文現象における全国キャンペーンなども行われました。公開天文台の発展に、多少なりともお役に立てたかなと思います。

西はりま天文台では退職までの20余年にわたり、非常に忙しいながらも充実した天文普及活動を繰り広げることができました(写真5, 6)。天文台での主務に加え、サイエンスツアー「ひょうごは大きな博物館」(1998年～2008年)や「サイエンスカフェはりま」(2008年～)など地域における様々な普及啓発活動を実施したり、音楽コンサートや詩の朗読など文化芸術活動と天文普及活動のコラボレーションなど、いろいろな形での天文普及活動を行えました。これらもひとえにみなさまのおかげです。

#### 4 ペルー望遠鏡のこと

今回の推薦理由の一つに挙げられた、ペルーへの望遠鏡寄贈についても一言述べておきます。

もともとは、西はりま天文台望遠鏡の赤外線カ



写真5 ラシラ天文台 (1995年11月1日).



写真7 ペルー望遠鏡の会議. 故石塚睦さん (左) と (1999年3月12日).



写真6 西はりま天文台での記念ショット. 後列左から黒田, 萩尾望都さん, 2人おいて, 故小松左京さん. 前列左から, 柳家小ゑんさん, 故森本雅樹さん, 寮美千子さん (1997年8月11日).

メラ開発にあたったホセ・イシツカさん (当時・東京大学大学院総合文化研究科) と巡り会ったことをきっかけに, 南米ペルーの天文学普及に関わることになりました. そして, ペルー政府の依頼でペルー国立教育天文台の開設に尽力していた故石塚睦さんを支援するため, 口径60 cmの光学望遠鏡をペルーへ寄贈すべく「ペルーへ天体望遠鏡を贈る会」を結成しました (1999年; 写真7). 幸い, 天文学関係者ばかりでなく, 故小松左京さん, 富野由悠季さん, 萩尾望都さんら広く著名人の賛同も得ることができました. そして, 望遠鏡の製作・諸費用が集まってペルーへ望遠鏡を寄贈する事業が実現できました (2014年). 現在, 寄

贈された60 cm望遠鏡はペルー最大の光学望遠鏡として, ペルー国立イカ大学において観測・研究に使用されているそうです. ペルーへの望遠鏡寄贈にあたって, ご支援ご協力いただいたみなさまには, この場を借りて, 改めてお礼申し上げます.

## 5 思い出の皆既日食ツアー

本物を魅せたかったのは, 夜空の星々ばかりではありません. 昼間の“黒い太陽”, 皆既日食にも魅せられて, 電館時代以来, 何度も何度も, 皆既日食ツアーに出かけました. そのクライマックスは, 豪華クルーズ船ふじ丸で臨んだ, 小笠原近海の皆既日食です (2009年; 写真8, 9). 日本近海ということもあり, 総勢500人もの参加者を得て, 6日間にも及ぶ, ささまざまなイベント盛り沢山の濃厚クルーズとなりました.

## 6 新しい世代へバトンタッチ

振り返れば, 40年間にわたり, さまざまな形で天文教育普及活動に取り組んで来ました. その間には, 多くの方々との幸せな出会いがあり, 多大な協力や支援をいただきました. そのおかげで今回の賞をいただけたのだと思っています. 天文学会での授賞式には参加できませんでしたが, 柴田会長ご自身が姫路の拙宅まで贈呈に来ていただき



写真8 小笠原近海での皆既日食クルーズ。出港後まもなく早くも戦勝気分の仲間たち。立っている左から、米田晃さん、黒田、故海部宣男さん、故森本雅樹さん、故佐藤健さん(2009年7月20日)。



写真10 柴田一成日本天文学会会長による贈呈式(2019年3月30日; 伊藤洋一さん撮影)。



写真9 同じく、ふじ丸船上のウェルカムパーティ時にて(2009年7月20日; 福江純さん提供)。



写真11 黒田さんを囲む会(2013年4月13日)。

大変感謝しております(写真10)。

公開天文台の将来の行方、天文教育普及活動の発展、まだまだ、したかったこと、し足りなかったことは多いです。あいにく退職直前に脳梗塞で倒れ、幸い一命は取り留めたものの、いまま言葉や執筆が不自由な状況です(そのような中、励ま

しの会を開いていただき、大変感謝しています; 写真11)。今回の原稿も40年近い付き合いのある大阪教育大学の福江純さんが叩き台を用意してくれたものです(福江さん、ありがとう!)。本来は受賞を励みに、ますます天文教育普及活動を繰り広げていかなければならないところですが、若い世代へバトンタッチをさせてください。日本天文学会のさらなる発展と、天文教育普及の推進を願って、お礼に代えさせていただきます。